



銀座コース

1 築地川銀座公園

晴海通り沿いにある公園。園内には多肉植物やカラーリフなどの彩り豊かな花壇がある。

2 中央通り(銀座通り)

週末や祝日には歩行者天国も実施されておりたくさんのお客が訪れる。「緑陰と憩いの場所づくり、美しい景観づくり」をコンセプトとして、新緑と黄葉の美しいカッラの並木が広がっている。

3 花椿通り

昭和初期までこのあたりは「出雲町」と呼ばれていたことから、花椿通りの改修にあたり、ゆかりの島根県出雲市から出雲のヤブツバキ8本の寄贈を受け、街路樹として植樹された。

4 御門通り

街路樹としてシダレヤナギが植わっている。銀座の柳は西条八十作詞「東京行進曲」でも有名である。

5 並木通り

ヨーロッパでは街路樹や公園樹として多く植えられているリンデンバウムの仲間、シナノキが植えられている。葉がハートの形をしており、初夏には淡黄色で香りの良い花が咲く。

9 江戸歌舞伎発祥の地

寛永元年(1624)に現在の京橋一丁目付近で猿右衛門(後の中村座)が橋をあげて歌舞伎興行を始めたのが江戸における歌舞伎の発祥といわれている。現在跡地近くには、記念碑がある。

8 銀座発祥の地

銀座は江戸幕府の銀貨鑄造所が設置され、通用銀貨類の鑄造・検査が行われた発祥の地。現在はその歴史を記念する石碑が立っている。

7 松屋通り

街路樹のハナミズキの英名「ドッグウッド」は樹皮の煮汁で犬のノミ退治を行ったことからついたと言われている。春には白や赤の花を咲かせる。

6 数寄屋橋公園

平成28年にリニューアルオープンした際にアメリカから寄贈されたハナミズキが植えられている。岡本太郎作「若い時計台」が目印だ。

日本橋コース

1 日本橋

日本橋は、江戸時代以来、五街道の起点として多くの人々が行き交い、日本橋川沿いの魚河岸等へと荷物を運ぶ往来が盛んであった。

2 江戸桜通り

日本銀行本店、三井本館、日本橋三越等の歴史的な石造りの建物が多く並ぶ。春には満開の桜が見られる。

3 日本橋本町・日本橋室町界隈

3月上旬頃に咲くオカメザクラの桜並木があり、一定早く春の訪れを知らせる。

4 堀留児童公園

かつてこの地に流れていた東堀留川の歴史を継承できるよう、川を模した水路があり、その周辺に憩いのベンチが設置されている。

5 十思公園

みどり豊かで、遊具の他に石町時の鐘、吉田松陰終焉の地を示す石碑、花勝三郎記念碑がある。歴史にゆかりのある公園。

9 浜町公園

関東大震災の震災復興三大公園(浜町、隅田、錦糸)の1つ。区立公園では一番広く(約4.7ha)、運動場や総合スポーツセンター、デキヤンプ場などがある。明治座前などのイチョウ並木は秋に黄金色に色づく。

8 浜町川緑道

かつて水運で賑わいをみせた浜町川を戦後に埋め立て、現在は緑道になっている。江戸時代には、幕府から興行特権を認められていた歌舞伎江戸三座のうち、中村座と市村座が周辺にあったことにちなみ、動進帳の弁慶像が設置されている。

7 甘酒横丁

明治初期、横丁の入口に甘酒屋があったことからこの名がついた。通りの両側に商店が立ち並び、食べ歩きも楽しめる。街路樹のトウカエデは秋の紅葉がきれいな木だ。

6 人形町通り

下町情緒が漂う通り。甘酒横丁とともに東野圭吾の小説「新参者」や「麒麟の翼」の舞台にもなった。様々な木が植えられており、春には桜が、秋にはフウの紅葉が楽しめる。

八丁堀～月島コース

1 本の森ちゅうおう

令和4年12月にオープンした京橋図書館と郷土資料館が併設された施設。2階には緑あふれる環境でイベントが開催される「つどいの森」がある。また、屋上庭園では緑に囲まれながら読書を楽しむことができる。

2 桜川公園

新大橋通りに面した大きな石のモニュメントが目印。春にはソメイヨシノが花を咲かせる。※Park+PFIを活用した公園整備を実施中。R9リニューアルオープン予定。

3 桜川屋上公園

下水道局桜橋第二ポンプ場の屋上にある公園。公園内に池と流れがあり、コナラやモミジの紅葉も楽しめる。

4 霊岸島桜潮所・量水標跡

明治6年(1873)に開設した隅田川河口の霊岸島桜潮所は、標高基準を定めるための水位観測所だった。現在、その跡地にはシンボリックな観測柱が設置されている。

9 わたし公園

再開発事業に伴い、令和6年に区施設の屋上に新たにオープンした公園。屋上から望む川沿いの景色が綺麗で、障がい者就労カフェが併設されている。

8 隅田川月島緑道

隅田川沿いの緑道。マンサクやツツジなどさまざまな樹種が見られる。夏にはナツツバキやギボウシが花を咲かせる。

7 佃渡船場跡

佃大橋の架橋以前、かつての佃島と対岸とを渡す船の発着場があった場所に記念碑がある。

6 佃公園

隅田川沿いの公園。園内には幕末に築かれた灯台を復元した石川島灯台や友好都市山形県東根市から寄贈されたサクランボの木がある。

5 中央大橋

平成5年に架けられた斜張橋。橋中央の脚部には隅田川とセーヌ川の友好河川を記念して、パリ市から贈られたオシロップ・ザンク作「メッセンジャー」の彫像がある。

晴海コース

1 月島川みどりの散歩道

月島川沿いの緑道。ソメイヨシノやジンダイアケボノなどの桜並木がある川をのぞくとハゼやエビ、カニが見られるかも。

2 旧晴海鉄道橋

昭和32年(1957)に完成し、鉄道路線が廃止となる平成元年(1989)までの33年間貨物列車が運行し、物流で都市の発展を支えてきた歴史的な橋りょうである。

3 桜の散歩道

朝潮運河沿いの桜並木。春には約60本のソメイヨシノなどの桜が花を咲かせる。

4 晴海第三公園

公園内の「晴海田んぼ」では米を栽培している。田んぼの周辺には水生植物が観察できるビオトープがある。

5 晴海臨海公園

晴海運河と高層ビル群に囲まれた公園。遊具のある芝生広場や多目的広場、犬が自由に遊べるわんわん広場を設置している。

10 十返舎一九の墓

『東海道中膝栗毛』の作者などで知られる江戸時代後期の戯作者、十返舎一九の墓所(通常非公開)。東陽院門前には徳川無声が記した十返舎一九の墓所の石碑がある。

9 豊海運動公園

デキヤンプ場、多目的広場、テニス場などの様々な施設がある。朝潮運河に面しており、眺望の良い公園。

8 朝潮運河親水公園

朝潮運河沿いの公園。夏場でも風が通るため涼しさを感じる。ベンチでくつろぎながら運河をゆっくりと眺められる。

7 晴海ふ頭公園

東京2020大会の選手村エリアとなっていた公園。噴水やカフェ、遊びの広場、海辺のテラスがある。レイボープブリッジがきれに見える。

6 晴海緑道公園

晴海臨海公園と晴海ふ頭公園を結び、全長約1kmの緑道公園。景色もさながら、ジョギングなど様々な楽しみ方ができる。

健康器具

健康器具は日常的に健康づくりに取り組めるよう設置しています。区内には、足裏を刺激する健康こみち15カ所の他、ぶらさがり器具や筋筋ベンチなどの健康器具を設置しています。(令和8年3月現在)積極的に活用し、健康維持の手助けにご利用ください。

健康こみち

ぶらさがり

背伸ばしベンチ

上体ひねり

筋筋ベンチ

複合遊具

複合遊具とは複数の遊具が組み合わさった大型遊具のことです。この中にはインクルーシブ遊具(障害の有無、身体能力、年齢、国籍の違いなどに関わらず誰もが利用できる遊具)も含まれています。

主な設置場所

鉄砲洲児童公園

築地川公園

堀留児童公園

浜町公園

月島第二児童公園

豊海運動公園

便利な交通手段もご利用ください

● 中央区コミュニティバス「江戸バス」

中央区内を巡る循環バス。中央区役所を起点として、「北循環」及び「南循環」の2ルートがあり、20分間隔で運行しています。PASMO/Suica等の交通系ICカードも利用可能。
例 日立自動車交通(株) TEL. 03-5682-1122
運賃: 大人・小人共に100円
時間: 7:00～19:50 (日曜、祝日は8:00～)

● 中央区コミュニティサイクル

コミュニティサイクルは、地域内に複数のサイクルポートを設置し、どこでも自転車を借りることができ、返却することができシステム。利用は事前に会員登録が必要。
例 中央区コミュニティサイクル運営事業者 TEL.0570-783-677
https://docomo-cycle.jp/tokyo/
1回会員: 基本料 0円/月 月額会員: 基本料 3,300円/月
最初の30分 165円/回 最初の30分 0円/回
延長 165円/30分 延長 165円/30分

水辺空間

かつて江戸時代、中央区内には多数の水路が縦横に走り、舟運が文化や商業の発展に大きな役割を果たし、水辺は人々の生活と深い関わりを持っていました。多くの水路が埋め立てられた現在でも区の面積に占める水面の割合は東京23区で最も高く、豊かな水辺を有しています。誰もが快適に水辺の散策を楽しめる環境を整備するため、自然環境や周辺景観との調和にも配慮した水辺空間の創出を目指しています。

■ 水上交通の活性化

陸上交通への依存は、深刻な交通渋滞や環境への負荷、エネルギー消費増大などの問題を招いています。舟運は安らぎや潤いを与え、自然環境教育の活用、災害時の輸送路確保手段としても注目されています。

■ 水辺の緑道・テラスの整備

人々がより水辺を身近に感じることができるよう、水辺の緑道やテラスの整備を進め、地域の人々の憩いの場を創出しています。

緑空間

「緑」の役割は多様で、日差し・温度・風の調整・空気の浄化・土壌への雨水の浸透・保水など、私たちの生活に欠かせないものとなっています。中央区では緑を増やし、充実させることにより、快適でうおいのあるまちづくりを目指しています。

■ 公共施設の緑化

まとまった緑地の確保が難しい都心の中央区では、区役所や出張所、学校や図書館などの全ての公共施設の屋上や壁面を緑化し、環境にも配慮した区民にとって親しみのある施設になるよう進めています。

■ 緑のパートナーシップを築く

中央区では花の都中央区を実現するため、区民や企業の方々が公園や街路の花壇の水やりや管理、清掃などを行うアダプト制度を創設しています。多くの区民や企業の協力により、花や緑豊かなまちづくりが支えられています。

■ 公園で見られる大きな木

箱崎公園では幹回り約280cmのクスノキ、数寄屋橋公園で幹回り約170cmのヤナギなど区立公園で大きな木が見られます。これらの木は風格ある景観を形成しています。

中央区環境土木部水とみどりの課
〒104-8404 中央区築地1-1-1 TEL. 03-3546-5434
令和8年3月改定 発行種別登録番号 B-012 不特定開示

徳川家と銀座と椿

江戸幕府の初代將軍家康・二代將軍秀忠・三代將軍家光が椿好きとして知られます。家康が江戸幕府を開いた時、祝いの品として白椿が献上されました。二代將軍秀忠は花好きとして知られ、特に椿を愛好し、全国的な椿ブームの発端となりました。銀座の街の町割(街区)は、江戸時代初期に徳川家康が整備してから現在まで、ほとんど変わらない形で残っています。花椿通りのある付近は、江戸時代には出雲町と呼ばれる町でした。出雲町は昭和5年(1930)の町名変更で町名はなくなったものの、平成5年(1993)には歴史的な縁から、花椿通りに島根県出雲市から寄贈された椿が植えられました。江戸時代からほとんど変わらない道を歩きながら、歴史に思いをはせつつ、椿の美しさを愛でみるのはいかがでしょうか。

歴史コラム

江戸幕府を開いた時に祝いの品として献上されたという白椿

十思公園の石町時の鐘

江戸時代から明治初期まで人々に時刻を知らせるためについていた鐘が「時の鐘」です。時報用としての役目を終えた後は、関東大震災後に建立した鉄筋コンクリート造の鐘楼(十思公園内)へと移設されました。現在でも年に2回、地域のみさんによる鐘つきが行われています。

歴史コラム

写真「石川島造船所 佃島渡船」(中央区立郷土資料館所蔵)

佃島渡船場跡

江戸時代から昭和39年(1964)まで隅田川の両岸を結ぶ渡し船がありました。その発着所があった場所に石碑が立っています。この石碑は昭和2年(1927)に渡船場施設が完成し、東京市営の無料の汽船による曳舟渡船を開始した記念に東京市によって建立されました。

歴史コラム

写真「石川島造船所 佃島渡船」(中央区立郷土資料館所蔵)

旧晴海鉄道橋

中央区晴海と江東区豊洲をつなぐ旧晴海鉄道橋は昭和32年(1957)に敷設され、晴海ふ頭に荷揚げされた小麦や大豆などを載せた貨車を機関車が引いて橋を渡り、深川方面を経て国鉄線へ各地へ運んだ歴史があります。高度経済成長を引っ張った「昭和の象徴」と言っている建造物が、令和7年に「春海橋公園遊歩道」と名称を変え、遊歩道化されました。歩道部に当時の鉄道レールを設置し、アーチ部の色彩を建設当時の色彩に復元する等、歴史的価値にも配慮されており、歴史を感じられる観光スポットとして楽しめます。

歴史コラム

写真「石川島造船所 佃島渡船」(中央区立郷土資料館所蔵)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会レガシー

晴海ふ頭公園には選手村レブリッジプラザで使用された木材を再利用したベンチやパーゴラがあります。また、同公園にある高さ約3.5mの巨大な「TOKYO」モニュメントは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとして設置されたもので、レーンボープブリッジや東京タワーを望むベイエリアの新たなファーストスポットとなっています。

歴史コラム

写真「石川島造船所 佃島渡船」(中央区立郷土資料館所蔵)

中央区のボランティア

■ NPO法人はな街道

NPO法人はな街道は、周辺町会や諸団体の代表により構成され、国や中央区、地域と協力して中央通りの美化活動などを行っています。花植えやクリーンウォークのほか、地域の小学校とも連携しての花植えを実施し、四季折々の花々で街を彩る等の活動を行っています。

中央区花壇ボランティア

区では、平成元年4月に「花の都中央区宣言」を制定し、花や緑でつまれた美しいまち・清潔なまちの実現に取り組んでいます。区内在住・在勤者を対象に、公園内や「花咲く街角」等の花壇で草花の植え付けなど、管理のお手伝いをいただく花壇ボランティアを随時募集しています。

詳しくはこちら